

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0172902710		
法人名	株式会社アイエスティサービス		
事業所名	グループホーム1条ハイツ		
所在地	旭川市1条通6丁目83番地		
自己評価作成日	平成26年5月1日	評価結果市町村受理日	平成26年7月10日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2013_022_kani=true&JigyosyoCd=0172902710-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	タンジエント株式会社
所在地	北海道旭川市緑が丘東1条3丁目1-6 旭川リサーチセンター内
訪問調査日	平成26年6月25日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

事業所が設立から今年で8年を迎える、理念にあるように、(利用者様の願い)を取り入れ、日々心をつなぐケアを行っている。毎日の行事では、個々を大切にし、職員と一対一の外出にし、利用者様の内面や細かな身体状況コミュニケーションを図ることを大切にしている。立地が駅前ということで、交通機関も便利です。ご家族やご友人などの宿泊希望があれば、宿泊可能です。特に長期入居されている方のADLが低下しないよう日々取り組んでいます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

＜身体機能の維持・向上への取り組み＞
運動不足や転倒防止、危険防止のために歩行練習や棚上げ運動など一人ひとりに寄り添ってADLの維持向上に努めたり、塗り絵や鉄を使う機会を作るなど作業療法やリハビリを採り入れながら認知症の進行を防ぎ、身体機能の維持・向上に取り組み成果をあげている。
＜戸外に出かける支援＞
一人ひとりのその日の希望にそって、スーパーでの買い物や散歩など戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、ショッピングモールでの外食や護国神社祭、上川神社祭見物やアイヌ博物館に出かけるなど普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、戸外に出かけられるように支援している。

Ⅴ. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を 掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求 めていることをよく聴いており、信頼関係ができ ている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面が ある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場合やグループホームに馴染みの人や地 域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関 係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の 理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表 情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満 足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安な く過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにお おむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟 な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	施設内に理念を掲示し、職員全体で、理念を共有し実践できるよう、取り組んでいる。	地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所独自の理念をつくりあげ、日常業務や内部研修会を通じて話し合い、その実践につなげている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の方が少ないが、近隣の会社や店舗の方に運営推進会議、防火災害時の協力をお願いしている。	市内中心部に位置し、ビルや商業施設が多く町内会も無く、地元の人々との交流が難しい面もあるが、災害時の協力要請等で交流に努めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	いつでも気軽に立ち寄って頂き、相談や困ったことなどを聞ける体制ではあるが、地域住民は少ない。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	事業所の運営や利用者の状況、行事案内、避難訓練対策、外部評価の結果などを説明し意見やアドバイスを活かすよう取り組んでいる	運営推進会議では、避難訓練の状況や日常生活の様子、利用状況など具体的内容について話し合い、そこでの意見をサービス向上に活かせるよう努めている。	今後は、年6回を目安に定期的に運営推進会議を開催できるよう計画しているので、その実践に期待します。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市の主催する研修への参加を通じ、事業所の報告などをし、さらに協力関係を持てるように取り組んでいる。	市や包括支援センター主催の研修会参加や日常業務を通じて、協力関係を築くように取り組んでいる。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員に身体拘束マニュアルを正しく理解してもらい、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束廃止のマニュアルを整備し、すべての職員が指定基準における禁止の対象となる具体的な行為を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修の参加などで、職員の意識づけを行い日々ホーム内でそのことがないように防止に努めている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修会などに出席したことはあるが、もっと研修会で学ぶ機会を作っていきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用者様には、訪問面談を行い、見学を進めている。ご家族様に対しては、十分な説明を行い希望や不安をお聞きして、安心して入居できるよう努力している。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者様やご家族様の要望には、敏速な対応を行っている。	外部評価の事前のアンケート結果から、家族の評価が高く、コミュニケーションが良くとられている様子が伺える。また、意見や苦情等を言い表せるように苦情箱の設置や家族と一緒に外食等ができるように支援をしている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	会議を通して管理者は、職員の意見、提案を聞き、共有することで、仕事に反映させる努力をしている。	職員の離職率は低く、安定したサービスを提供していると共に本人の希望や申し出での勤務調整や内部研修会の充実など各自が向上心を持って働けるよう努め、職員の意見や提案を聞く機会をもうけている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は、職員の個々の努力や実績、勤務状況を把握し、キャリアパスを作成し、昇給の基準としている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	事業所内で研修を行うと共に外部で行われる研修には、できるだけ参加してもらいシフトの調整をしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域包括支援センター、グループホーム協議会及び、グループホーム協会主催の研修参加を行い、交流を図りサービスの向上を図っている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	お話を十分に伺い不安、要望等を傾聴し、安心して、暮らして頂けるよう対応している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様の要望や困っていることをお聞きしその上で、どのように対応するかを伝えていく。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者様やご家族様の思いや状況を把握し、何が必要かを見極め敏速に対応している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様の思いや不安喜びを見つけることを努め、お互いに思いを共有し、共に生活できるようにしている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様には、電話連絡や手紙、来訪時には近況を伝えている。またその都度何かあった場合には、相談し協力を得ている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	以前住んでいた近隣の友人が来訪されたり、住んでいた家を見に行ったり、墓参りや美容室など外出支援をしている。	お墓参りや馴染みの美容室の利用、友人の来訪や家族と一緒に外出できるように支援するなど馴染みの人や場所との関係が途切れないように支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員が利用者様と多く関わり合いを持つことで、利用者様同士の関係を把握し、座席の位置などを考慮し、利用者様同士が、関わり合い支え合えるよう支援している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後、いつでも相談にきてほしいことを伝えている。医療機関に転院された方には、機会を作りお見舞いに伺っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の会話から利用者様の意向を把握し、確認が困難な利用者様にはご家族様から意向を聞き取り、本人の思いに沿った支援をしている。	日常の会話やセンター方式を活用して生活歴を把握し、カンファレンスやモニタリングで事例検討を進めながら本人本位に検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者様、ご家族様から入居の生活状況をお聞きし、入居前の生活習慣や環境を尊重した支援に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々の利用者様の生活リズムをスタッフが把握している。日々の状況変化は、管理者が把握し、申し送りノートにより、職員間で共有している。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者様、ご家族様の要望を伺い反映させている。	本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人・家族の希望や要望、医師・看護師からの指導や助言、モニタリング等で職員の意見を反映し、現状に即した介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録日誌等を残し、身体状況及び利用者様の言葉や様子等を記録、職員間で、共有し実践や介護計画の見直しや評価をしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者様やご家族様に合わせ、柔軟な対応をするよう努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアさんが来訪され、協力をもらいながら、いつでも協力して頂ける体制ができています。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者様、ご家族様の希望のかかりつけ医に、同行受診し、日々の変化を把握し、医師と医療連携を図っており、適切な医療が受けられる体制になっている。	通院への送迎や協力医療機関との連携で適切な医療を受けられるように支援している。また、受診は、本人・家族の納得したかかりつけ医となっている。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員を確保し、健康管理や医療面での助言をもらっている。何か異常が見れた際には、いつでも報告ができる様、24時間体制を整えている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院によるダメージを最小限にするために、医師や看護師と話をする機会を持ち早期退院に向けて、アプローチしている。管理者や職員はできるだけお見舞いへ行き、安心できるようにしている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化、終末に伴い事業所でできる対応について利用者様、ご家族様に説明し、リスクやメリットについても説明し、今後について話合うようにしている。医師、看護師等から話を聞く機会を持つように努めている。	重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族と話し合いを行い、事業所ができることを十分に説明しながら指針を職員間で共有している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時対応マニュアルで、研修を行い全員に把握してもらい、スムーズな対応ができるようにしている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の避難訓練を実施し、運営推進会議では、非常時に、地域の方の協力をして頂くようお願いしている。	年2回の火災避難訓練の実施や災害時に地域の協力が得られるように取り組んでいる。また、スプリンクラーや通報装置などの設備を完備し、定期点検も実施している。	

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご利用者様、ご家族様にお名前の呼び方を聞き、希望する呼び方で了解をもらっている。個人情報には、十分気をつけるよう職員間で周知している。	個人情報の取り扱いには、十分に配慮している。また、一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉がないように職員間で周知している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	一人ひとりの能力に応じて、本人が選択しやすいような場面づくりをしている。日頃から話しやすい雰囲気になるよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様の言葉や思いを大切に、ケアの目標に取り入れ、思いに添った支援を臨機応変に対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	天候や四季による衣類の変更、環境の変化に応じてその時にあった服装を選んで頂いている		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者様にご希望のメニューを聞き、メニューに反映させている。能力に応じてお手伝いを共に行っている。	専任の調理スタッフを配置し、一人ひとりの好みや力、嗜好を把握したメニュー作りをしている。また、誕生日には、家族と一緒に外食に出掛けられるように支援している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の食事、水分を一日を通して記録し、職員はその状況に合わせ、水分などの増減を確保しながら体調管理に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一人ひとりに合った口腔ケアを毎食後行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表により、頻度、時間、排便状態などのパターンの把握に努めている。必要に応じてトイレ誘導により、できるだけ自立できるように支援している。	一人ひとりの力や排泄パターンを排泄チェック表で把握し、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日のレクリエーションで、ラジオ体操を取り入れている。食事は野菜を多く取り入れ、乳製品を必要時や訴え時に飲んで頂きできるだけ薬に頼らない排泄を行っている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	毎日入浴できるので、体調や外出に合わせて週2回入浴している。入浴時職員との個別の時間を大切にしている。	一人ひとりの希望やタイミングに応じて入浴ができるように対応している。また、体調や外出に合わせてながら個々に沿った支援をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の体調や生活リズムに配慮し、支援している。また、日中はできるだけ運動を取り入れることで、夜間は、グッスリ眠れるようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の説明書は、いつでもわかるようになっていいる。服薬時には、2度チェックし、誤薬を防いでいる。内服に変更があった場合は、職員間で、情報提供している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴から得意な分野の把握に努め、希望を取り入れレクリエーション等で活かしている。個々に合った楽しみを利用者様が互いに誘い合い参加できるよう雰囲気大切にしている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	個々の身体状況や希望に沿って、スーパーの買物や散歩やドライブなどを行っている。またご家族様と一緒に買物や外出の協力を得ながら支援している。	一人ひとりのその日の希望にそって、スーパーでの買物や散歩など戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、ショッピングモールでの外食や護国神社祭、上川神社祭見物やアイヌ博物館に出かけるなど普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、戸外に出かけられるように支援している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的には、預かり金をホームで管理している。自己管理のできる利用者様は、ご家族様と相談し、ご本人に管理して頂いている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	年賀状は、ご家族様や利用者様に聞き作成し送付している。手紙は、返事を利用者様と一緒に書き、送付している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビング内には、行事の写真を掲示し、居室には、個々の写真を掲示し、ご家族様の訪問時、ホームの様子がわかるようにしている。リビングには、季節に合った飾りを一緒に装飾している。	共用空間には、外出行事や誕生会の写真の掲示や季節毎の飾りつけで生活感や季節感が感じられるよう工夫している。また、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	1階がリビングルームのため、場所がなく3階に利用者様が使える部屋を用意している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具や馴染みの物を持ってきて頂くことで利用者様が心地よく過ごせるような居室づくりを行っている。	居室には、馴染みの家具や寝具が持ち込まれ、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	エレベーターには、各居室がわかりやすいよう張り紙をしている。		

目標達成計画

事業所名 一条ハイツ

作成日: 平成26年6月26日

【目標達成計画】

優先 順位	項目 番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に 要する期間
1	4	運営推進会議は、開催しているが、定期的に開催されていない。日程等の都合により参加が少ない。	二ヶ月に一回のペースで行っていきたい。ご家族様や地域店舗の方の参加を増やしていきたい。	①お知らせを早めに伝え、参加者を積極的に呼びかける。 ②奇数月に開催を行う ③イベント開催時に運営推進会議の時間を作る。	1年
2	19	事業所便りの工夫、スタッフの参加でホームでの生活を伝えていきたい。	ご家族様が利用者様の毎日の生活を理解していただく。	①ホーム内の内容がよくわかるようにする。 ②利用者様の声を入れた、わかりやすいものを作成する。	1年
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入して下さい。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加して下さい。